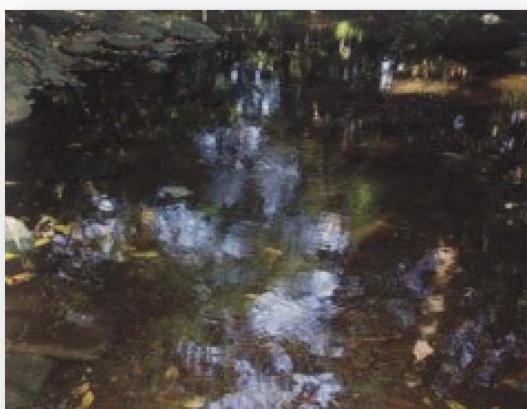


湧水・清流保全宣言都市

# 東久留米の湧水マップ



平成 29 年（2017 年）3 月  
東久留米市市民環境会議水とみどり部会  
調査・編集

## 東久留米市と湧水

東久留米市は、都心から北西へ約24km、武蔵野台地のほぼ中央に位置し、南は西東京市・小平市の2市、西は東村山市、北は清瀬市、北東は新座市に接しています。

地形的には標高70m～40mの範囲で西から東になだらかな傾斜をしています。武蔵野台地は今から約12～13万年前から約6万年前まで流れている古多摩川の作った扇状地の上にあるので、東久留米市の地下には多量の地下水が流れています。そのため、市内の谷地、川筋の多くの個所からは地下水が湧水となって小さな流れを作り、黒目川・落合川・立野川等となり、西から東に流れています。

このように東久留米市は湧水のまちなのです。このうち落合川と南沢湧水群は環境省による「平成の名水百選」に東京都内で唯一選定されました。

また東久留米市はこうした恵まれた湧水環境を保全していくため、平成23年6月に全国で初めての「湧水・清流保全都市宣言」を行いました。



南沢沢頭流



るるめちゃん

黒目川水系



KG-1 さいかち窪 (小平園内) 数年に一度しか見られない



KG-3 黒目川源流 天神社前右岸



KJ-5 黒目川上流 都大橋上流左岸護岸下



KJ-8 黒目川上流 平成橋直下右岸隙間



KT-3 黒目川中流 中橋下流右岸



KT-5 黒目川中流 門前大橋上流右岸水抜きパイプ



KK-3 黒目川下流 神宝大橋直下右岸護岸隙間



HK-1 白山公園 西水路底

東久留米の主な湧水点の写真

落合川本流



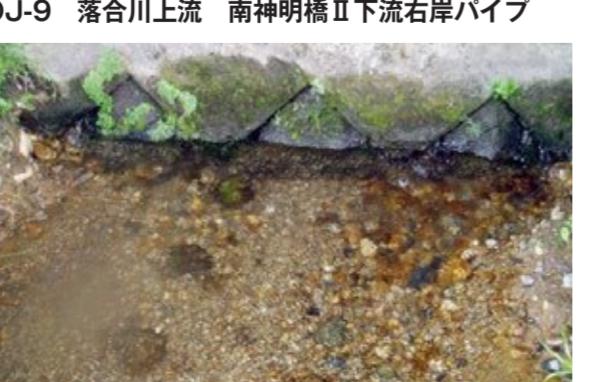
OG-1 落合川源流 かわせみ橋下流 中央の池



OJ-4 落合川上流 地藏橋上流左岸崖下



OJ-9 落合川上流 南神明橋II下流右岸パイプ



OK-4 落合川下流 落合橋直下右岸隙間

南沢湧水群・竹林公園・立野川



MZ-1 南沢湧水群 給水所内東の泉



MZ-3 南沢湧水群 樹林の奥の泉



CP-1 竹林公園の池



TG-2 立野川源流 崖下砂礫穴

東久留米市の湧水管

黒目川水系 (湧水管所 26ヶ所うち湧水点 23ヶ所、湧出点 3ヶ所)

場所(位置)	番号	湧水・湧出点の場所	水量
黒目川	KG-1	さいかち窪 (小平園内)	●
	KG-2	越境橋上流左岸 (通称あがと池)	△
	KG-3	天神社前右岸	●
中流	KG-4	天神橋下流右岸	●
黒目川	KJ-1	北原公園	△
	KJ-2	三方橋下流右岸 (十ヶ島上流)	●
	KJ-3	三方橋下流右岸 (十ヶ島下流)	●
	KJ-4	下里水川神社・左岸用田底	●
黒目川	KK-1	神大橋下流右岸崖下	●
	KK-2	神大橋直下右岸崖下	●
	KK-3	神大橋直下右岸崖隙間	●
下流	KK-4	都大橋上流右岸 (出水口護床プロック)	●
白山	KJ-5	都大橋下流右岸 (出水口護床)	△
	KJ-6	都大橋直下右岸崖隙間	●
	KJ-7	都大橋直下右岸崖隙間	●
	KJ-8	都大橋直下右岸 (出水口護床)	●
公園	KJ-9	本郷橋上流右岸 (黒目川雨水幹線出口)	●
	HK-1	北野路底	△
	HK-2	北野球場水路	●
	HK-3	北野球場水路の穴	●

落合川水系 (湧水管所 58ヶ所うち湧水点 46ヶ所、湧出点 12ヶ所)

場所(位置)	番号	湧水・湧出点の場所	水量
落合川	OG-1	左岸石組み隙間	△
	OG-2	右岸石組み隙間 (上流)	△
	OG-3	右岸石組み隙間 (中流)	△
	OG-4	右岸石組み隙間 (下流)	△
源流	OG-5	かわせみ橋上流中央の池	●
	OG-6	かわせみ橋直下右岸崖隙間	●
	OG-7	都大橋上流右岸崖隙間	●
	OG-8	都大橋直下右岸崖隙間	●
落合川	OG-9	都大橋直下右岸崖	●
	OG-10	都大橋直下右岸崖下	●
	OG-11	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-12	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-13	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-14	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-15	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-16	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-17	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-18	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-19	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-20	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-21	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-22	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-23	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-24	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-25	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-26	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-27	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-28	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-29	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-30	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-31	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-32	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-33	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-34	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-35	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-36	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-37	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-38	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-39	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-40	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-41	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-42	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-43	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-44	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-45	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-46	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-47	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-48	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-49	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-50	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-51	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-52	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-53	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-54	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-55	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-56	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-57	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-58	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-59	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-60	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-61	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-62	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-63	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-64	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-65	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-66	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-67	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-68	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-69	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-70	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-71	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-72	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-73	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-74	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-75	都大橋直下右岸崖隙間	●
	OG-76	都大橋直下右岸崖隙間	

## 東久留米市の地形の形成

長い地球の歴史をみると、氷期には大量の氷が陸地をおおうので海面が下がり、温暖な間氷期には氷がとけて海面があがります。今から12万年前（「関東平野と東京の地形の変遷」参照）ごろの最後の間氷期には、海がどんどん陸地に入り込み、古東京湾と呼ばれる海が東の方に開口していました。

つづいて訪れた最後の氷期には、海面が下がったために、山地は大規模に削られています。古い多摩川（古多摩川）が、そうした山地からの砂礫を流し、海域に堆積させたのが東京層の上にのる武藏野礫層です。

そして、この武藏野礫層の上に、五万年前ごろから噴火した富士山などの火山灰が積もったのが、上部の新しい関東ローム層です。こうして東久留米市のある武藏野台地は、今ある姿が形づくられたのです。

## 東久留米市の地形と湧き水（その1）

武藏野台地は、昔から水がとぼしいところとして知られてきました。武藏野台地には、水が浸透しやすい関東ローム層が厚く堆積しているからで、ここにしみこんだ雨水は、その下にある礫層を伝わって東に流れてしまうからです。しかも、武藏野台地は、西へいけばいくほど勾配が急で、地下水の流れも早いのです。

ところが武藏野台地は、ちょうど標高50m付近で、勾配がゆるくなります。そのために礫層を流れる地下水は、この勾配がゆるくなったところで、急に流れを止められるようになることから、湧きだしやすくなります。

井之頭池、善福寺池、富士見池など武藏野台地で豊富な湧き水によってたたえられる池の多くが、この標高50m付近にあるという理由です。東久留米市の南沢湧水群も、この標高50m線上に位置しています。

武藏野台地の河川

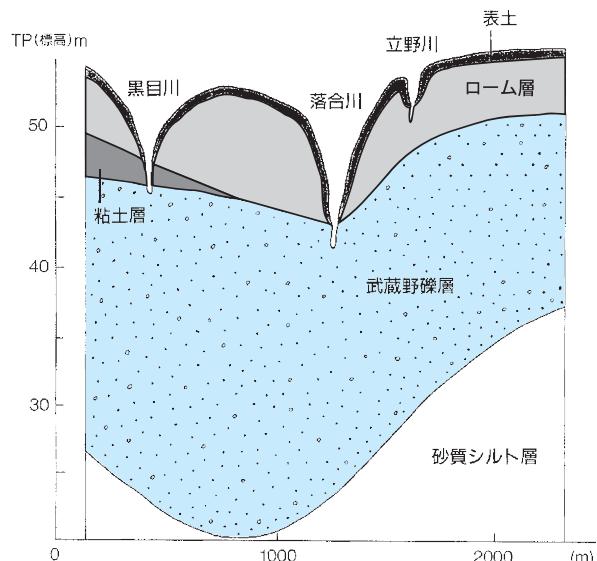


出典：「東久留米のあけぼの」1999（平成11年）

## 東久留米市の地形と湧き水（その2）

地下水の貯水池である礫層の底面をみると、黒目川・落合川の川筋に大きな谷ができていることがわかります。すなわち、東久留米市の地下には地下水の集まる、深くて巨大な谷が存在するのです。さらに五万年ほど前の地表であった礫層の上面にも落合川に沿った谷があり、かつて古多摩川の川筋の一つがここにあったことを物語っています。

このように、東久留米市は、地下水が集まりやすい地下の構造の上に位置しており、かつてはいたるところから地下水が湧き出していました。近年の都市化によって、地下に浸み込む水が減少したり地下水の流れが切断されたりして、湧き水が減少していますが、それでも東久留米市は、東京都でも最大規模の湧水量をもつ湧き水地帯の一つとして知られています。



### 武蔵野台地の地層

黒目川、落合川が流れる武蔵野台地はこんな地層をしています。

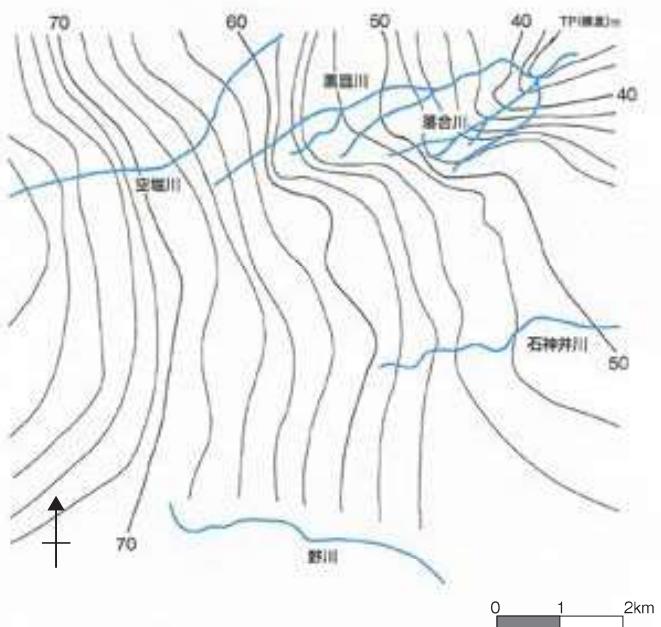
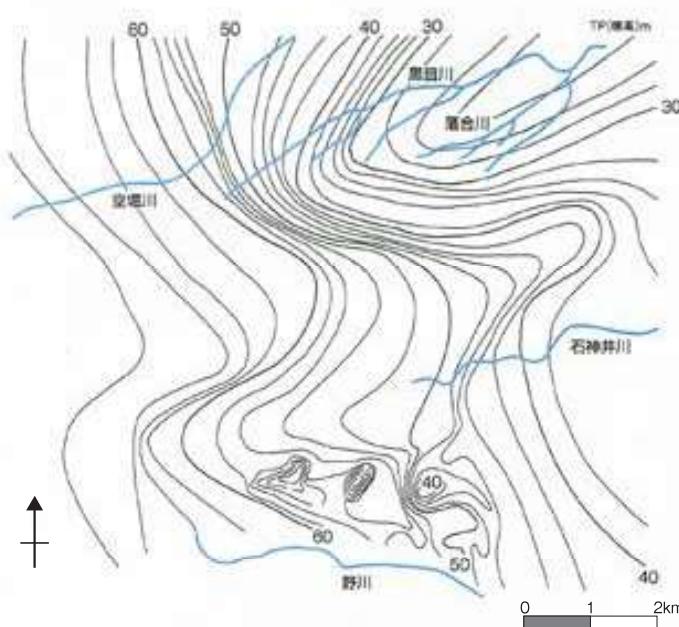
(口一ム層) 地表から7~9mの厚さに堆積する富士山の火山灰で、雨水の浸透能力が大きいのが特徴。

(武蔵野礫層) 古多摩川によって運ばれた、直径50~100mmの砂礫、ここに地下水が流れている。厚さは、10~25m。

(砂質シルト層) 水が流動しにくい、より古い堆積層。

ローム層は、上部に有機物に富んだ土壤を作り微生物と空気の補給による水質浄化作用があります。礫層は、地下水が貯留、流動する地下の貯水池となります。

出典：東久留米市「湧水のひみつを探る」



### 地下水の集まる巨大な谷

地下水の貯水池である礫層の底面を調べてみると、黒目川、落合川の川筋に大きな谷ができています。いまの田無付近には細長い尾根をつくり、地下水の分水界となっています。この谷筋は関東平野の中心部が沈降する“関東造盆地運動”と深く関係していると考えられています。

注) 関東造盆地運動 日本最大の構造盆地である関東構造盆地を形成した地殻運動で先第三紀の基盤の上に、海成の第三系および第四系を連続的に厚く生成した。沈降の中心は年代によって移動しているが、東京湾と関東平野中央部である。

### 古多摩川の跡を辿る

礫層上端面は約5万年前の地表面で、古多摩川が作った広大な扇状地です。底面で見られた大きな谷はありませんが、落合川に沿って深く刻みこまれた谷を作り、古多摩川の一部はこの筋に流れていたと考えられます。

出典：山田啓一、石川雅博「武蔵野台地における表層地質条件と水環境計画への適用」1993.2、水工学論文集第37巻

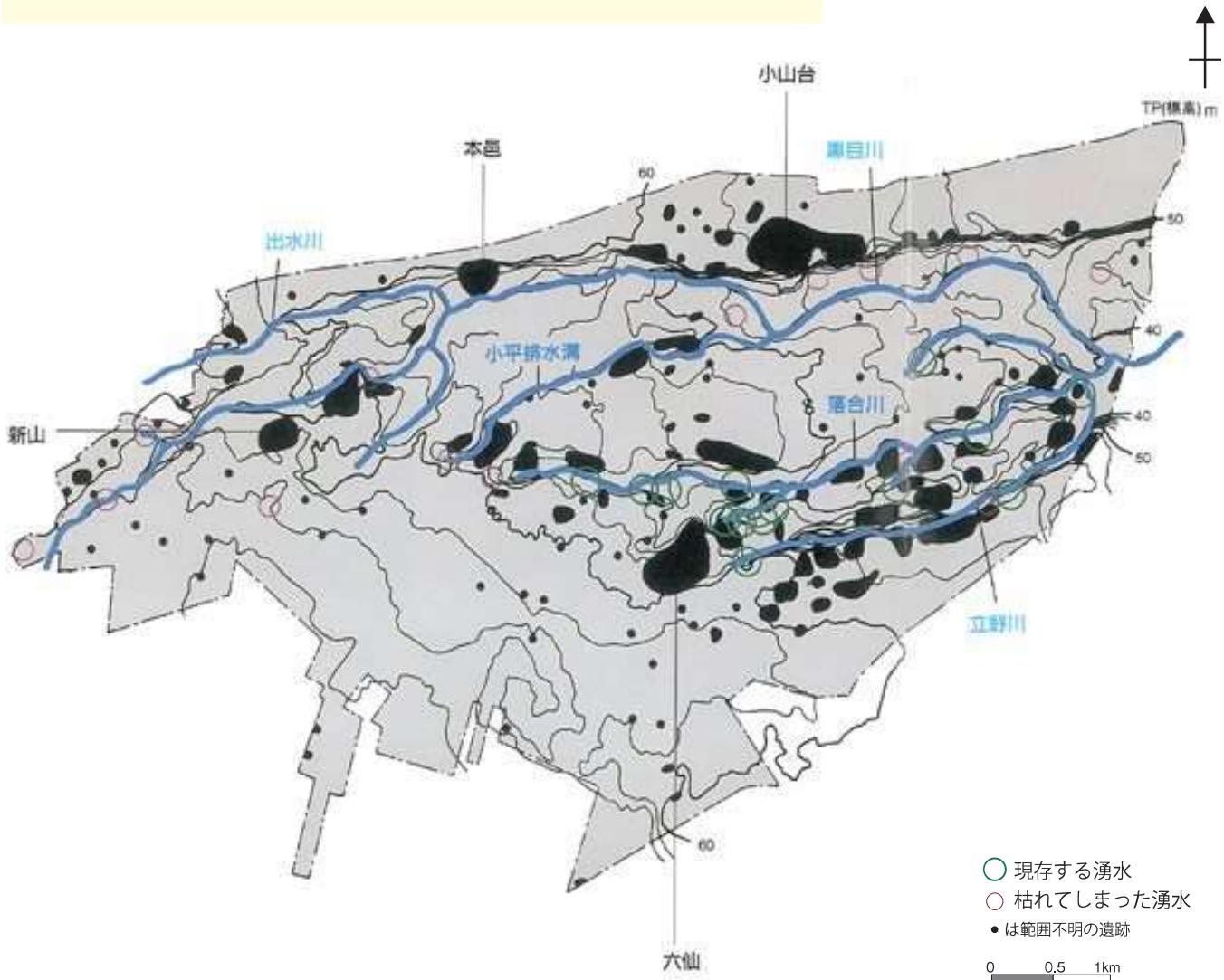
## 原始・古代の人びとの生活の舞台

私たちが住宅をさがす時に、できれば日当たりがよく水はけのよい台地の上を選ぶと思います。私たちが住宅の立地の条件として、日当たりがよく、水はけのよい台地を選ぶように、原始・古代の人びとも、そうした条件の場所を生活の舞台としました。

東久留米市は、市内全域が日当たりがよく、水はけがよい武蔵野台地の上にあります。そして、市内各所に豊富な湧き水があるということは、原始・古代の人びとにとっても、住居やムラ（集落）をかまえるには、またとない好条件の場所だということがいえます。

### 河川利用より湧水依存度が高い遺跡分布状態

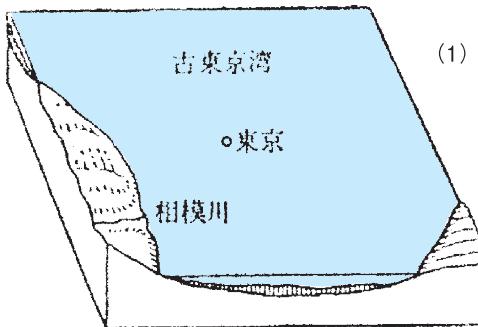
遺跡群は、氾濫原が広がる黒目川下流部を避け、段丘崖に沿って分布しています。一方、落合川、立野川筋では、小規模な遺跡群が散在し、特に、南沢湧水、竹林公園、立野川合流付近の密度が高くなっています。また、落合川、立野川沿いにも分布し、洪水氾濫が比較的小規模であったことが推測されます。



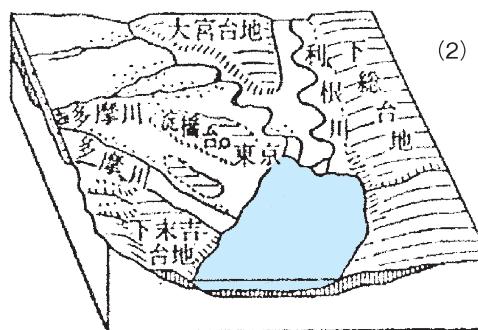
出典：東久留米市「湧水のひみつを探る」

# 関東平野と東京の地形の変遷

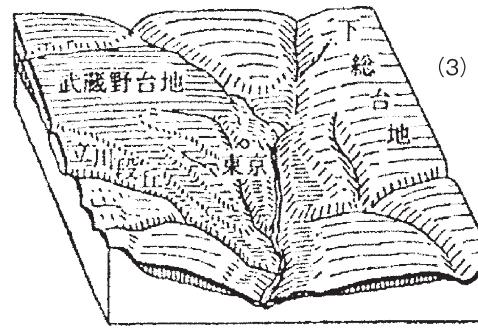
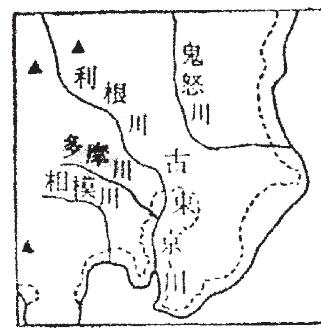
## 落合川のあゆみ



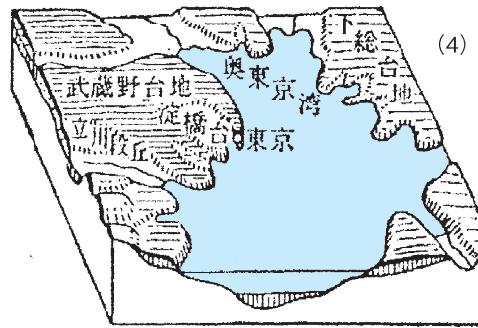
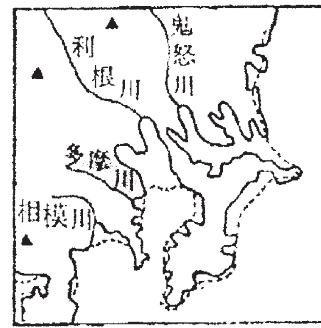
(1) 下末吉期 (S)  
12-13万年前



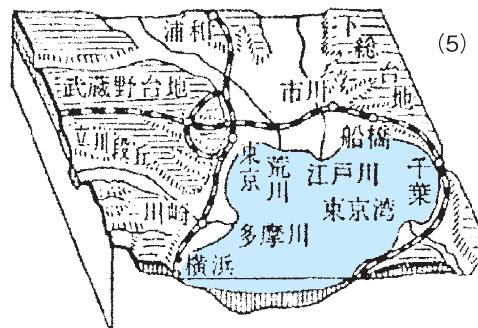
(2) 武藏野期 (M₂)  
約6万年前



(3) 立川期 (Tc₃)  
約2万年前



(4) 繩文前期  
約6000年前



(5) 現在

出典：関東平野と東京の地形の変遷  
貝塚爽平「日本の地形」  
1977 岩波書店

古東京湾の海岸線は今の群馬県南部から栃木県を経て茨城県北部まで北上していた。

その頃の古多摩川は東に流れていた。

今の落合川は古多摩川の川筋の一つだったと考えられる。

(黒目川、白子川、石神井川も同じ古多摩川の川筋の一つ)

地殻変動（隆起）により、古多摩川は、上記の川筋を残して南東に向きを変えて流れようになった。

### 落合川の誕生！

海岸線が大きく南下して今の東京湾くらいの形となる。

利根川もまだ東京湾に注ぐ。

最後の氷河時代で大変寒く、海岸線は今の三浦半島から房総半島の突端まで南下し、東京湾は消失し古東京川となる。利根川、多摩川は合流して古東京川を形成。

この頃落合川や黒目川のほとりに古代人（石器時代の人）が住むようになる。例：多聞寺遺跡

気候温暖な時期となり海岸線は再び北上して東京湾ができる。この頃落合川、立野川、黒目川の近くには多くの縄文人が住むようになる。

### ☆弥生時代

落合川は湧き水は豊富だが水田を作るような低湿地は少なく、水稻農耕を生業とした弥生時代の人は少なかった。

### ☆中世・近世

落合川や立野川のほとりに水田が出来、また畑作が加わり再び多くの人が住むようになる。

### ☆近代

水田があった。川は蛇行していた。

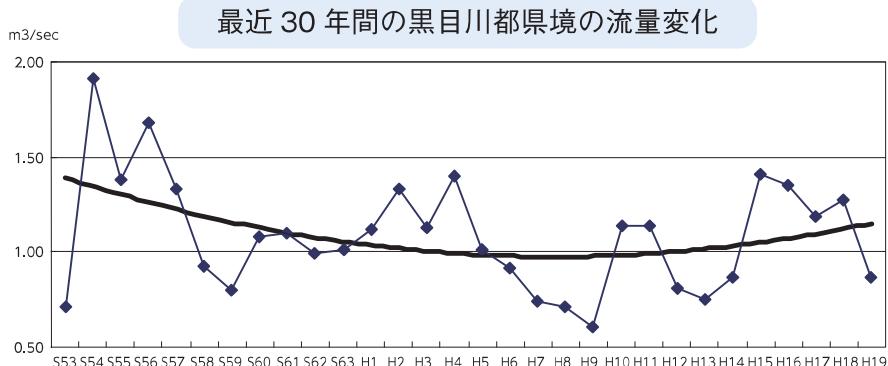
### ☆現代

水田がなくなり川の近くにも住宅が建つ一方川の改修工事（水害防止のため川幅を広げ、護岸の直線化）が進んだ。

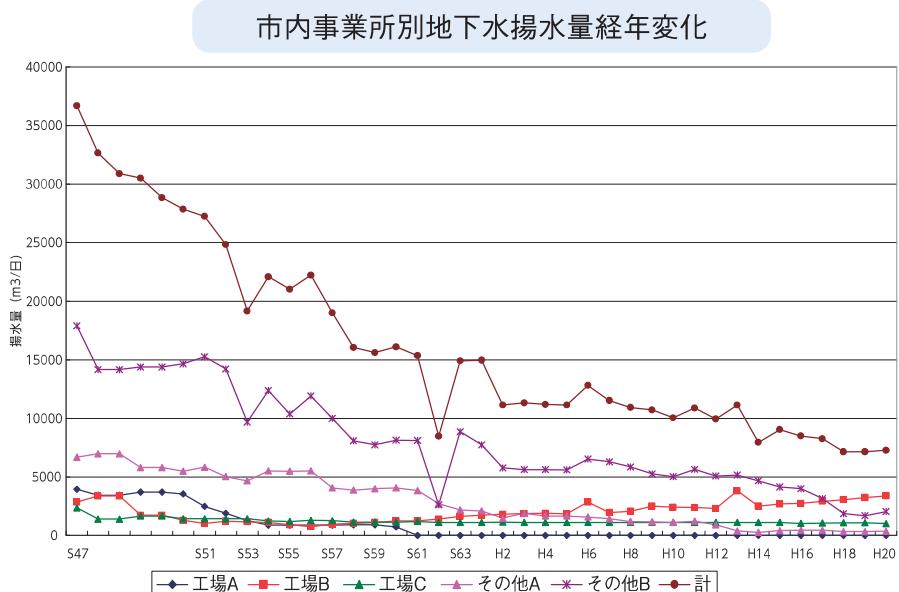
山口久福「落合川の湧水調査報告」  
平成21年1月 環境シンポジウム  
資料より引用

## 近年の湧水の状態について

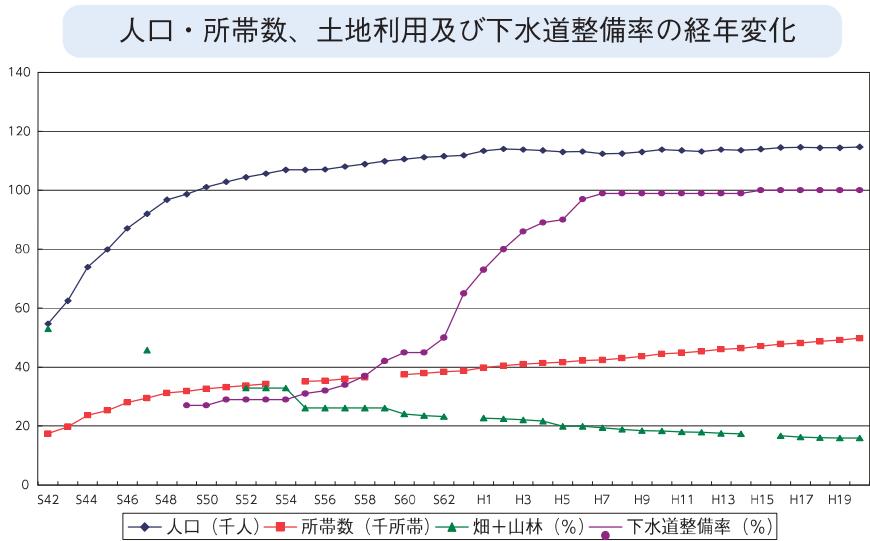
近年の東久留米市内の湧水や河川の状態を調べてみると、流量は増加し、水質は改善傾向にあります。



黒目川や落合川などの川の源流は東久留米市内にあり、他からの水の流入がほとんどないことから、河川の流量は、湧水の湧出量とほぼ一致すると考えられます。黒目川と落合川が合流する黒目川都県境の流量はこの 10 年くらいはやや増加している傾向にあります。



事業活動に伴う地下水のくみ上げが劇的に減っていることも、河川流量に影響していると考えられます。河川流量の増加は、水質の改善にも影響しています。



東久留米市は、高度経済成長期を経て、市内の人口が急速に増加しましたが、まちの発展と引き換えに市内の河川は異臭を放つほど汚れていた時期がありました。こうした河川の水質が大幅に改善した理由として、下水道整備が進んだことによって河川に直接家庭や工場からの雑排水が流れなくなったことなどが考えられます。

## 本マップにおける湧水及び湧水点の定義

市内にある湧水の湧き出す場所（湧水点）には、冬には水がなくなる場所や、一つの池の中に多くの湧水点がある場所があり、湧水マップを作成するにあたっては、湧水点としてみるための定義が必要です。

本マップにおいては、湧水及び湧水点を以下のとおりに定義しています。

（東京都環境局が発行している「～東京の湧水～湧水マップ」とは異なります）

### 1.湧水とは？

本東久留米市湧水マップでは、「湧水保全・復活ガイドライン」（平成22年3月、環境省）に従い、湧水とは「地下水が自然状態で地表に流出したもの、もしくは地表水に流入するもの。」と定義します。

### 2.湧水の水質条件

- (1) DO(溶存酸素濃度)8mg/l以下を目安とし、場合によっては9mg/l以下までを可としました。
- (2) 温泉法に規定された温泉(水温25°C以上又は温泉成分を含む)は含まないこととします。

※東久留米市では水温の目安として15°C～20°Cとしました。

### 3.湧水点等の定義

- (1) 目視で観測した一定の量以上(約50m<sup>3</sup>/日以上)を湧水点としました。目安として、2インチのパイプから半分以上の断面にわたって出ている量です。
- (2) 隣り合った水抜きパイプや護岸の隙間などから湧出している場合は、約10mを目安として同一の湧水点としました。
- (3) 河川の右岸と左岸から出ている場合は、別の湧水点としました。
- (4) 池・泉の場合は全体として1つの湧水点としました。
- (5) 本マップでは、渴水期は1月～4月、豊水期は8月～11月を目安としました。  
マップ上の表示は、通年湧水があるもの●、渴水期にはなくなるもの○マークを用いています。
- (6) 個人の宅地内は調査が不十分なため入れていません。
- (7) 本マップは、平成20年から平成24年までの、豊水期・渴水期各1回、計8回の調査を行い、豊水期に2回以上一定量の湧水が確認された地点を湧水点としました。
- (8) 上記定義(1)以下の量の湧水が出ていることが確認された地点は、「湧出点」として、表に記載しました。

### 4.その他

黒目川源流の4箇所の湧水点は、「東京の名湧水57選」にも選定されており、調査時期以外には湧水が確認され、量が少ないことがあります、特別に湧水点としました。

## 湧水・清流保全宣言都市

私たちのまち東久留米市には、黒目川・落合川・立野川を代表とする、湧き水による幾筋もの川があります。縄文の時代より人々はこの清き水に集い、やがてむらやまちがつくられ、暮らしが営まれてきました。

時は移り、都市化と生活様式の変化により、みどりや湧き水が減り、川が汚れた時期もありました。しかし、人々の努力によりその流れを絶やすことなく、清らかさを取り戻した湧き水の流れは清流に集まる生き物を育み、市民に潤いと安らぎを与えるとともにまちの象徴にもなっています。

東京で唯一、「平成の名水百選」に選ばれた川が流れる東久留米市で暮らす私たちは、まちを潤す湧水と清流を誇りとしています。私たちは、このすばらしい環境を次の世代によりよいかたちで引き継いでいくために、樹林や農地のみどりなどが、地下水を豊かにし、湧き水と多くの生き物の命を育んでいる仕組みを大切にして、今後も市民・事業者・行政が力を合わせて湧水と清流の保全に取り組んでいくことを宣言します。

2011年（平成23年）6月11日



湧水調査参加者（敬称略）

調査責任者：山口久福

年月	水とみどり部会員	サポーター
H20.8	前嶋隆 三田村順一 山口久福 横田和夫 豊福正己 高田夏子 小山実 駒田智久 村野建彦 三戸茂	中村翠 佐々木一 武石百合子
H21.3	山口久福 豊福正己 小山実 横田和夫 駒田智久 前嶋隆 三田村順一	佐々木一 堀恭子 三浦昭一 中村翠
H21.11	前嶋隆 山口久福 堀恭子 駒田智久	佐々木一
H22.3	前嶋隆 山口久福 駒田智久 堀恭子 横田和夫	山田義久 佐々木一
H22.11	山口久福 堀恭子 駒田智久 前嶋隆 横田和夫	佐々木一 野島貞夫 山本恵次
H23.3	渡部卓 堀恭子 山口久福 前嶋隆 横田和夫	佐々木一 山田義久 梶井琢太
H23.11	永田哲夫 山口久福 山本恵次 駒田智久 佐藤雄二 三田村順一 池田泰則	
H24.3	佐藤雄二 山口久福 渡部卓 永田哲夫 池田泰則	堀恭子 佐々木一
H25.11	豊福正己 黒田敏夫 駒田智久 佐藤雄二 永田哲夫 三田村順一 山口久福 渡部卓	

写真提供：東久留米 湧水・清流研究会 東久留米の情報ステーション

発行：東久留米市役所環境部環境政策課

〒203-8555 東久留米市本町三丁目3番1号

T E L：042-470-7777（代表）

M A I L：kankyoseisaku@city.higashikurume.lg.jp

印刷会社：株式会社アトミ

〒187-0031 東京都小平市小川東町五丁目13号22号

T E L：042-345-1155

平成25年3月23日 初版 発行

平成26年3月20日 第2版 発行

平成29年3月31日 第3版 発行

無断複製を禁ずる